

元気な企業をつくる!

the Heartful

# OAG



30<sup>th</sup>  
CHALLENGE

## CONTENTS

- 02 太田孝昭が語る春夏秋冬  
「チャレンジ・OAG」
- 03 創業30年にあたり
- 04 ●特別対談● 「高い志念が未来を創る」  
SBIホールディングス(株) 代表取締役 社長 北尾吉孝様  
× OAGグループ 代表 太田孝昭
- 08 私たちのお客さまのチャレンジのご紹介
- 12 OAGの30年の歩み
- 14 OAG各社・各部門の責任者のチャレンジ
- 23 創業30年記念ロゴのご紹介／グループ関連図のご紹介
- 24 今後のセミナー開催予定／今月の写真



創業30年  
記念号

【チャレンジ特集 第2弾】

2018年7月号

【2018年6月29日発行】

Vol. 159



## 「チャレンジ・OAG」

OAGグループ代表  
太田 孝昭

私が創業した30年前を振り返ると、まさに隔世の感があります。しかし、今ここでは過去ではなく、30年後の未来の話＝夢の話をしてみたいと思います。

30年後の東京・日本・中国・アメリカ・世界はどうなっているのでしょうか。イーロン・マスクは火星に行っているのでしょうか。考えただけで「ワクワク」「ドキドキ」します。

30年後、

- ① 病気は全て治ると言っている人がいます。
- ② ロボットが大体の仕事は引き受けて、人はその上に乗って、極楽のような生活だという人もいます。
- ③ エネルギーは只になり、貨幣も意味がなくなるという人もいます。
- ④ シンギュラリティ(技術的特異点)が来て、人間よりAIの方が全てにおいて優れた能力を持つようになるという人もいます。
- ⑤ ターミネーターのような世界になり、人間はロボットの奴隷のようになるという人もいます。

どれもこれも当たっているような、当たっていないような感じです。

しかし、皆様の会社もOAGも、30年後に立っていなければなりません。立っていないと30年前(現在のことです)の話ができませんから、それは寂しいですね。

では、30年後にも立っている会社になるには、どうしたら良いのでしょうか。

それは、30年後も立っているという強い意志と、変化する環境にチャレンジすること以外に答えを見出せません。

30年後に何が起きるのか、想像はできても、ほとんど当たらないと思います。1903年にライト兄弟が初飛行をして、たった66年後にアームストロング船長が月に行って帰って来ました。それを1903年当時は想像できなかった様に、30年後の姿も想像できません。しかし、2048年は確実にやって来ます。その時に会社として存在することが求められています。それには、変化する時代や世相に合わせて、果敢にチャレンジし続ける以外に方法はないのだと思います。

# 創業30年にあたり



皆様、1988年5月20日の創業以来30年が経過しました。これもひとえに皆様からの厚いご支援の賜物と、心から感謝を申し上げます。

私たちOAGは、お客様のバックヤード機能として「お客様と共に成長する」が有るべき姿であり、かつ使命でもあります。そして最高の喜びも、御支援の成果が上がり、お褒めの言葉を頂けたときです。

OAGのお客様の多くは、中堅・中小企業であります。中堅・中小企業には多くの課題があると同時に、大きな成長の可能性を秘めております。ともすれば、営業は強いが、経理とか、人事とか、総務とかが弱いんだというお客様にとって、OAGは最強のパートナーでありたいと願っています。そのために、絶え間ない研鑽を積む義務があります。

私たちにとって、今までも決して平坦な道ではありませんでしたが、これからはより一層起伏の激しい道を進まなければなりません。全社員が心を合わせ、知恵を出し合い、お客様企業の成長をご支援致します。

OAGの役割を、人間の身体に例えると、ビタミンの様な存在かなと思っています。人間の活動は頭脳から始まって筋肉・骨格等々、様々な臓器によってなされます。たとえ筋骨隆々であったとしても、ビタミンが不足していると筋肉に疲労がたまり、本来の力を発揮できません。病気にすらなってしまいます。

筋肉は、皆様がつけて下さい。私たちOAGは、筋肉が十分に力を発揮するためのビタミン剤となって、皆様方の活動をご支援致します。お客様にとって最高・最適なビタミン工場となることこそ私たちOAGの役割であり、使命です。

私たちの経営理念

**「私たちはお客様の成長を支援し、“カチあるもの”を創ります」**

今後とも、よろしくお願い申し上げます。

OAGグループ代表

太田孝昭





【太田孝昭】

【北尾吉孝様】



● 特別対談 ●

# 高い志念が 未来を創る

SBIホールディングス(株)  
代表取締役 社長

北尾吉孝様



OAGグループ  
代表

太田孝昭

SBIホールディングス代表取締役 社長の北尾吉孝さんは、インターネットと金融の親和性の高さにいち早く着目され、業界を牽引するトップランナーとして走り続けてこられました。そして今、フィンテックを基盤に金融界の内外で大変革を起こそうとしています。次々と事業を仕掛ける旺盛なチャレンジ精神は、いったいどこから生まれてくるのでしょうか。

そこで、本誌の創業30年特別対談にご登場をいただき、その秘密をお伺いしました。北尾さんは、公平無私な高い志念が事業の根幹には不可欠であると力を込めて語られ、企業家としての心得を改めて教えられたように思います。

## ■ 変化の兆しを掴むことが大切

**太田** 北尾さんは、SBIグループという大きな企業体を作りながらも、まだチャレンジを続けられています。それができるのは、なぜでしょうか。

**北尾様** 変化が激しい時代ですから、常に新しいチャレンジをしていなければ、取り残されてしまいます。2010年頃からコンドラチェフ循環\*の新しい波が来て、AIやビッグデータ、ブロックチェーンなどの新しい技術が出てきました。社会変革を齎すような技術革新に対応していかなければならないという追い詰められる気持ちが常にあり、そういった気持ちがチャレンジの原動力になっています。

変化が起きているのに、それに気付かない人もいますが、変化の兆しは敏感な人にはすぐに分かります。どのような変化が起ころうとしているのか、それを掴み、変化にいかに対応していくかを戦略的に考えていかなければなりません。

易经では三つの「キ」を学びます。「幾」は物事の兆し、「機」は物事の勘所、「期」はタイミングです。それぞれ重要なことですが、時代は常に変化を続けますから、変化の兆しを掴むことはとりわけ大事です。

**太田** 変わらなければ滅びてしまうという危機感が根底にあるのですね。

**北尾様** そういう認識で変化の兆しを掴むことがトップの責任です。その上で、透徹した使命感がなければ、トップの座は務まりません。自分と志を同じくする人を集め、事業を興し、それによって、社会をより良い方向に向かわせていく。危機を危機として認識しただけで終わらせないためには、強い使命感と責任感が必要です。

**太田** SBIの創業当初は、どのような志をお持ちでしたか。

**北尾様** 99年の創業より一貫して顧客中心主義の徹底とインターネットによる金融革命を標榜してきました。また、SBIグループではバイオ事業にも取り組んでいます。これは私がかつて医学を志していたためです。大学では医学部で分子生物学を学びたいと思っていましたが、天の配剤か、経済学部へ進み、卒業後には金融の世界に入りました。しかし医学への興味や関心を失ったわけではなく、事業活動を通じてそういった分野に携わるようになりました。人間には、夢が最初にあって、それを遅かれ早かれ、どうやって具現化していくか、それがまさに挑戦なのだと思います。

\*コンドラチェフ循環：技術革新を主因とする50～60年周期の好不況の経済循環





## 【北尾吉孝様】

SBIホールディングス(株)  
代表取締役 社長

1951年生まれ。兵庫県出身。74年慶應義塾大学経済学部卒業後、野村證券入社。78年ケンブリッジ大学経済学部卒業。同社ニューヨーク駐在、ロンドン駐在等を経て、91年野村企業情報取締役。92年野村證券事業法人三部長。95年ソフトバンク常務取締役。99年ソフトバンク・インベストメント(現・SBIホールディングス)代表取締役社長CEO。

## ■ 高い志念を共有できる同志を集める

**太田** 夢があっても、成功する人は多くありません。北尾さんにとっては、まだ成功の途中だと思いますが、ここまで成長できた理由をどうお考えですか。

**北尾様** 私の周りに、志念を共有する優秀な人が集まってきてくれたからです。リーダーとして大事なのは、如何なる大志を抱き、自分の人間的魅力により優秀な人を多く集わせて、彼らと共に自分がやるべきことを明確にし、そしてその志念を共有化して行くというプロセスです。だからこそ、その志念は共有されて後世に受け継がれて行くのです。それがなければ、事業は長続きしません。

創業して10年後に残っているベンチャー企業は、僅か6.3%です。起業しても、事業として継続するには、志を同じくする優秀な人材が必要なのです。優秀な人材を集めるためには、自分自身を磨かなければなりません。共感できる人間性、説得力のあるビジョンなどが人を惹きつける力になります。アメリカの鉄鋼王のカーネギーは、自分の墓碑銘に「自分より優れた者を集めし男、ここに眠る」という意味の言葉を刻みました。失敗する人は、私利私欲に走る人が多いように感じますが、己のためだけの野心ではなく、世のため人のための志をしっかりと定め、企業的な視点からは顧客中心主義を貫けば、志念を共有できる人材が集まり、お客さまからの支持も得られることでしょう。

## ■ 経営者が率先して努力し、人格を磨く

**太田** 今、中小企業の経営者が心がけるべきことは、何でしょうか。

**北尾様** やはり、いい人材を集めるために、自分を磨くことです。松下幸之助さんは、「松下電器は何をやっている会社ですか」と尋ねられたら、「人を創る会社です」と答えなさいと社員に言っていました。人を創るためには、自分自身を磨かなければなりません。松下幸之助さんは小学校を出て丁稚奉公をする中で、人格を磨き上げて、世界的な大企業を作りました。ですから、誰にとっても不可能な話ではないのです。しかし、そういう思いを強く持てるかが問題です。

良い大学を出て、良い企業に就職するという道だけでなく、例えば出光興産を創業した出光佐三さんは神戸高等商業学校(現・神戸大学)を卒業して、中小企業に入社しました。中小企業なら、営業から経理まで、あらゆる仕事を覚えることができるからです。現代ではトップが何から何までやることには無理がありますが、まずは一通り何もかも自分でやって、その中から相談できる人的コネクションを作り、自分がより集中すべき仕事に力を入れていくことです。そして、必要な人材を必死になって探す。待っていても、人材はやって来ません。

**太田** 中小企業は資金的な面で人材投資が難しく、企業の成長の足かせになっていることも確かです。それを克服する方法は、あるのでしょうか。

**北尾様** 現代はインターネットの時代ですから、ネットから得られる情報やSNSを通じた人的コネクションなどを積極的に利用すべきです。情報には、非常に価値があります。「彼を知り、己を知れば、百戦して殆(あや)うからず」という孫子の言葉がありますが、自分が何を知らないのか、何を知ることが大事なのか、その情報を徹底的に集めることです。ネットなら、お金がかかりません。

また、功成り名を遂げて、引退した人もたくさんいます。そういう人に、共感できる事業の存在を知らせれば、協力してくれる人も出てくるでしょう。

夢を描いたら、夢に現実的妥当性をもたらす施策や計画をきちんと持って、ロジカルに考えていくことです。勘に頼らず、分からないことは、分かっている人に聞くことです。

**太田** 北尾さんのお話をお聞きしていると、お金が無いというのは言い訳のような気がしてきました。強い決意を持てば、必ず解決できる。それこそが、経営なのですね。

**北尾様** その通りです。経営の先達が書かれた本を読めば、どれほどの苦勞をされて、それを乗り越えてこられたのかが分かります。「これがないからだめだ」「あれがないからできない」といっている内は、企業は成功しないと思います。

## ■ 揺るぎない志で変化に挑戦する

**太田** 大きな変化の時代が訪れますが、10年後、世の中はどうなっているとお考えですか。

**北尾様** あらゆるものが変わっていきます。例えば金融の世界では、これまで通貨は各国の政府が発行してきました。しかし、世界のどこの政府もコントロールできない、非中央集権的な仮想通貨がいよいよ普及しようとしています。通貨の歴史は、最初は貝殻や石から始まり、鑄造技術の発達とともに鑄貨が誕生し、印刷技術の高度化によって紙幣が流通するようになりました。そして、キャッシュレスの世界が生まれ、さらにビットコインなどの非中央集権的な仮想通貨が出てきて、各国政府が通貨をコントロールする必要はないのではないかという議論まで行われ始めています。「デジタルレイバー」が労働者を代替したり、AIがAIを作り出したりする時代が、そこまで来ています。まさに、シンギュラリティ\*と呼ばれているもので、その変化を人間は受け入れざるを得ません。

**太田** これからチャレンジしたいことやベンチャー企業の方々にアドバイスしたいことはありますか。

**北尾様** 「壮心已(や)まず」という言葉がありますが、私自身はチャレンジしようという気持ちはまったく衰えていません。新しい時代に対応した新たな金融業を作らなければなりませんし、SBIグループで手掛けてきたバイオ事業もようやく花が開こうとしていますから、事業として成功したといえるようにしなければなりません。

また、SBIグループではベンチャー企業への投資を行っていますが、投資の判断に際しては、事業の可能性を精査するだけでなく、最終的にはその会社のトップの志を見ている。志は、野心ではなく、世のため人のためという本当の意味での志でなければなりません。

志は曇りやすく、壊れやすいものです。『三国志』の英雄・諸葛孔明は、自分の息子に「澹泊明志(たんぱくめいし)」と語りました。「私利私欲に溺れず、淡泊でなければ志は明らかにできない」という意味です。私は個人的に児童心理治療施設「こどもの心のケアハウス 嵐山学園」も運営していますが、社会に尽くしたいという思いが根底にあり、その気持ちは志を曇らせないためにも大切なことだと思っています。

※シンギュラリティ:技術的特異点



# 私たちのお客さまの チャレンジのご紹介

OAGグループが、成長を続ける中で無事に創業30年を迎えることができましたのは、ひとえにお客さまのご指導ご鞭撻の賜物と存じます。衷心より御礼を申し上げます。

私たちは創業30年を機に、これまで以上にお客さまの成長への貢献を目指し、さまざまなチャレンジを行って参ります。

そこで、OAGのお客さまが実現を目指されているチャレンジについて、お話をお伺いしました。皆さまが創る未来へ、私たちOAGもチャレンジを重ねながらお手伝いして参ります。

(掲載は順不同です)



一般社団法人三乗堂  
代表理事  
中 愛様

## 日本の文化財を 後世へ遺すために

仏像が重ねてきた歴史、仏像を守る地域の人々の気持ち、そして仏像の制作に使われている様々な技術などの魅力に惹かれて、「後世に仏像を遺す」というミッションを持って仏像の修理を仕事としています。

しかし、近年は檀家の減少・住職の高齢化により「廃寺」となるお寺が増え、そこに安置された仏像が盗まれて売買されるケースもあります。これでは後世に日本の大切な文化財が遺せません。

よって、私たちは仏像の修理に留まらず、地域に根付いて仏像の調査・把握をおこない地域の人々と一緒に流出しないよう守っていく活動にチャレンジしたいと考えています。



(株) SPILYTUS  
代表取締役  
仲摩恵佑様

## 30年後に達成したい 「ぶれない軸」づくり

都内で「駅近かつ9㎡+ロフト」という少し変わったアパート開発事業を主軸としていることも、新たに取り組む法改正を加味した民泊や不特法に関わるチャレンジも、子どもの頃から根底にある「何か意味のあることをやりたい」という想いに始まります。現在は安定基盤を作ることに注力しています。

今後の経営は、その目標から引き算し、今何をすべきかを考えて戦略を作ることを大切にしたいと考えています。

また、この先も社員となかなか経験できないことへチャレンジしていく喜びを共有したいと思います。





(株)情熱  
代表取締役  
水野元気様

### 若者たちに時代に合わせた情熱を伝えていく

近年、急激に若年層の意識や働き方に変化が起きています。毎年多くの企業の新入社員研修や採用業務を担当させていただき、身近な私たちも驚きを隠せません。企業の規模に関わらず、現在の若年層に対するニーズは「自らモチベーションや働き方をマネジメントする能力」。私たちはこれを《情熱マネジメント》と呼び、自ら積極的に企業活動に参画し、即戦力化することに挑戦しています。

またIT化、AIが進む中でも大切にすべきは、社員の情熱です。私たちは時流を最先端でつかみ、成長に向けてチャレンジする企業の皆さまに研修を通じて貢献することに挑戦し続けます。



新日本製薬(株)  
代表取締役  
後藤孝洋様

### 100年繁栄し続ける会社づくり

“経営理念と人が会社をつくる”という考えのもと、理念浸透と人材育成に力を注ぎ、ひと工夫を大切にしながら経営に努めています。働き方の多様化が進む変化の激しい時代ですが、経営理念は共通の価値観であり、皆が実践することでお客さま満足・社員の幸せ・社会貢献につながり、会社の存在価値となります。

当社が創業100周年を迎える時、私は121歳。その記念の席に立ち会うことを夢見て、自らが理念の一番の実践者となり次世代のリーダーたちに継承していきたいと思っています。

社会に必要とされる会社は長く繁栄します。今後も100年繁栄し続ける会社づくりにチャレンジします。



(株)CLASSIC  
代表取締役社長  
菅場俊克様

### スケルトン経営にチャレンジ

ほぼルール無しで、会社の情報を全社員に極度に開示し、権限移譲と自由を与える「スケルトン経営」にチャレンジしています。その際に必要なのは「人を信じる」こと。とはいえ、リーダーによって得手不得手や実力差がありますので、それぞれの強みを活かしたグループ会社を設立し、サポートしています。嘘ばかりが目立つこの時代だからこそ、こんな経営があってもいい、思い切って実行しています。

一度切りの人生、“こんな会社になら自分の人生を使ってやってもいいかな”と思える会社を目指します。それにより、仕事に対する覚悟が生まれると信じて疑いません。



オートビジネスサービス(株)  
代表取締役社長  
尾崎眞二様

### 経営の想いを伝え ボトムアップで風土改革へ

「ディスラプション」という言葉が社内ですでに使われるようになり、主軸である社有車の管理業務も働き方も既成概念を一度否定してみるところから、新たな価値を創造し成長を見出したいと考えています。

既成概念を否定することには賛同しない社員もいましたが、想いを伝えて浸透を図るだけでなく、社員やパートの皆さんが集まってどうしたら会社が良くなるのか、どんな経営理念だったら良いかをボトムアップで考える時間を大切にしています。

現在の企業理念とビジョンはボトムアップで作ったもので、全社員が理念の実践に向けてチャレンジを続けています。



(株)MIKAELLE  
代表取締役  
分林実芳子様

## 人生の時間を豊かにする インテリアの提案

インテリアには、何に価値を置くのかというその人のライフスタイルが現れると考えています。

日本では、まだそうした認識が高くないように感じています。インテリアを通して豊かな人生を実現できるように、空間作りのご提案をしていきたいと考えています。特に、丹精を込めた高品質な空間には、人の手ならではの手作りの温もりがあり、それを私がセレクトする北欧家具と私の刺繍作品を通してインテリアに表現できればと考えています。

IT全盛の時代ですが、職人の家具や刺繍作品などのアナログ的な価値を丁寧に伝えていくことも、大きなチャレンジだと考えています。



(株)クイック・ガーデニング  
代表取締役  
渡辺則夫様

## 剪定ゴミから剪定資源への転換に チャレンジ

「日本のお庭を笑顔にします」。そんな想いで、庭木を切り続けて、お蔭様で15年を迎えました。

新たにチャレンジしているのは、剪定「ゴミ」を剪定「資源」に変えることです。捨てるだけだった大量の枝葉の有効利用を目指して、木質資源を堆肥化する共同研究や粉碎機の共同開発等を研究機関や企業と組んで進めています。

また、生成した有機堆肥は空き家の庭や空き地をミニ農地化する際に活用します。空き家が社会問題化していますが、庭をミニ農地化することで、地域の景観改善や防犯対策、交流・食育の場にもなります。今後もこうした地域貢献に努めていく考えです。



(株)ハースコーポレーション  
代表取締役  
有吉勝昭様

## コンディショニングで 日本を元気に!

創業して25年目。2000年より「体調改善を目的とする運動(コンディショニング)」への取り組みに業界で初めて挑戦。指導者育成のための講座や店舗運営、書籍の発刊をとおして拡げてきましたが、昨年から大手の参入もいよいよ始まり、オンリーワンからNo. 1を目指す段階にきました。

研究開発されてきた技術は、ジュニアから高齢者、そして、アスリートにも拡がっており、さらにコンディショニングで日本を元気にしていきます。

また、創業目的の運動指導者の地位向上のため、働き方改革を成功させ、業界No. 1の給与を目指します。



(株)フォービス  
代表取締役  
家永慎太郎様

## ビジネスを成功に導くシステム構築に チャレンジ

お客様と共に成長するシステムを創る、そんな想いでリピート通販、EC向けフルフィルメントシステムのソリューションを提供しています。創業時から「つくって使用する」ではなく「つくって変化する」システムの構築を大切にしています。そして、お客様の成長スピード、内外環境の変化、コスト等に応じて、システムを根底から創り直すのではなく必要な部分だけ柔軟に変えられる、そんな「継続性のあるシステム構築」を実現させるべくチャレンジしています。

お客様のビジネスを確実に成功に導くためのソリューションを提案し続けるため、私たちのチャレンジは続きます。



東京街路(株)  
代表取締役  
荒尾春秋様

## 建設業×ワークライフバランスに チャレンジ

「建設業」「道路の維持・修繕」この言葉を聞くとワークライフバランスとは疎遠なイメージがあります。しかし、人が財産であるこの業界で社員のモチベーションアップや、人材の確保のために必須だと考え、数年前から取り組んでいます。

工期の厳しい建設業では時間的な制約が避けられませんが、まずは時間を創出し、地域の皆さんとの絆を深めるため、お祭りや清掃活動と一緒に取り組んでいます。その結果「港区のワーク・ライフ・バランス推進企業」の認定もいただきました。今後も建設業だからとあきらめず、社員とともに働きやすい環境づくりにチャレンジしたいと思います。



(株)アイケンジャパン  
代表取締役  
中島厚己様

## 社員が誇り・夢・希望を 持てる会社

サラリーマン時代の経験を糧に、社風がよい会社・社員が自分の将来像を描ける会社づくりを目指しています。毎日、笑顔で生き活きと仕事ができ、チャレンジやスキルアップを図れる環境を整え、この会社で一生働きたいと感じ、自分の将来に希望が持て、安心して結婚・出産等を迎えることができる環境を大切にしています。

ビジネス面では、事業分野の拡大や不動産事業のメインターゲットである社会人女性の安心安全快適を追求していきます。社員一人ひとりがこの会社で働くことに誇りを感じ、知人に入社を勧めたくなるような環境作りに拘り続けたいと思います。



学校法人東京青葉学院  
理事長  
城所達也様

## 20年後に社会で求められる人材を 幼稚園から

私たち職員にとって、子どもたちの成長した姿を見ることが一番の喜びです。幼稚園・学童に通う2歳～10歳の子どもたちが、大人になってもチャレンジし続けるような自主性の高い子に育ててほしいと考えています。

なりたい自分に向かって夢中で繰り返し行なう姿や失敗を恐れず挑戦する姿を見ていると、毎日の1コマ1コマにこそ大切なことが詰まっていると感じます。将来大きな壁にぶつかっても、乗り越えることができるトップクラスの保育を目指しています。

子どもたちのチャレンジに負けないう、園長の私も職員と共にいろんなことにチャレンジをしていきたいと思っています。



(株)オプトエレクトロニクス  
代表取締役  
俵 政美様

## 今でしょう! IT経営変革のチャレンジ

IT技術の進歩が急加速し、メーカーにおいても10年以内に80%の業務をIT化できる凄い時代が訪れる。毎日仕方なく繰り返している仕事から解放され、本来の自分の能力を思う存分発揮できるすばらしい時代だ。

当社も全業務のIT改革を本格化させ、会社は大きく変豹し始めたが、我々が感じているのは苦しさより、多くの充実感だ。そして、「社員を会社の最大の資産にする」これは最も難しい経営課題だったが、今回のIT化で実現できると思う。最高に興奮するIT変革へのチャレンジを、皆と共有している。70歳を迎えた私は、本当に幸せな時間を過ごしています。

# 【OAGの30年の歩み】

S63 H1 H2 H3 H4 H5 H6 H7 H8 H9 H10 H11 H12 H13 H14 H15

写真①



写真①:「土業」のワンストップサービスを提供する「アドバイスリンク」に参加した当時の太田孝昭(後列左端)

写真②



写真②:太田・細川会計事務所の初期メンバーと

写真③



写真③:平成7年頃の太田孝昭



写真④:平成28年に開催したOAGグループの全社員が集まる研修会「OAGミーティング」

(株)CFO(現・(株)OAGコンサルティング)設立 6月

1月 「内部統制構築支援」開始

11月 (株)ビジコム(現・(株)OAGビジコム)設立

職業紹介事業登録 1月  
人材派遣事業開始 5月

9月 (株)経理秘書(現・(株)OAGアウトソーシング)設立

5月 (株)シーケーシステム研究所(現・(株)OAG)設立

CIを実施・ロゴマークを採用 5月

法政大学「中小企業キーマン養成集中講座」に講師として参加 7月

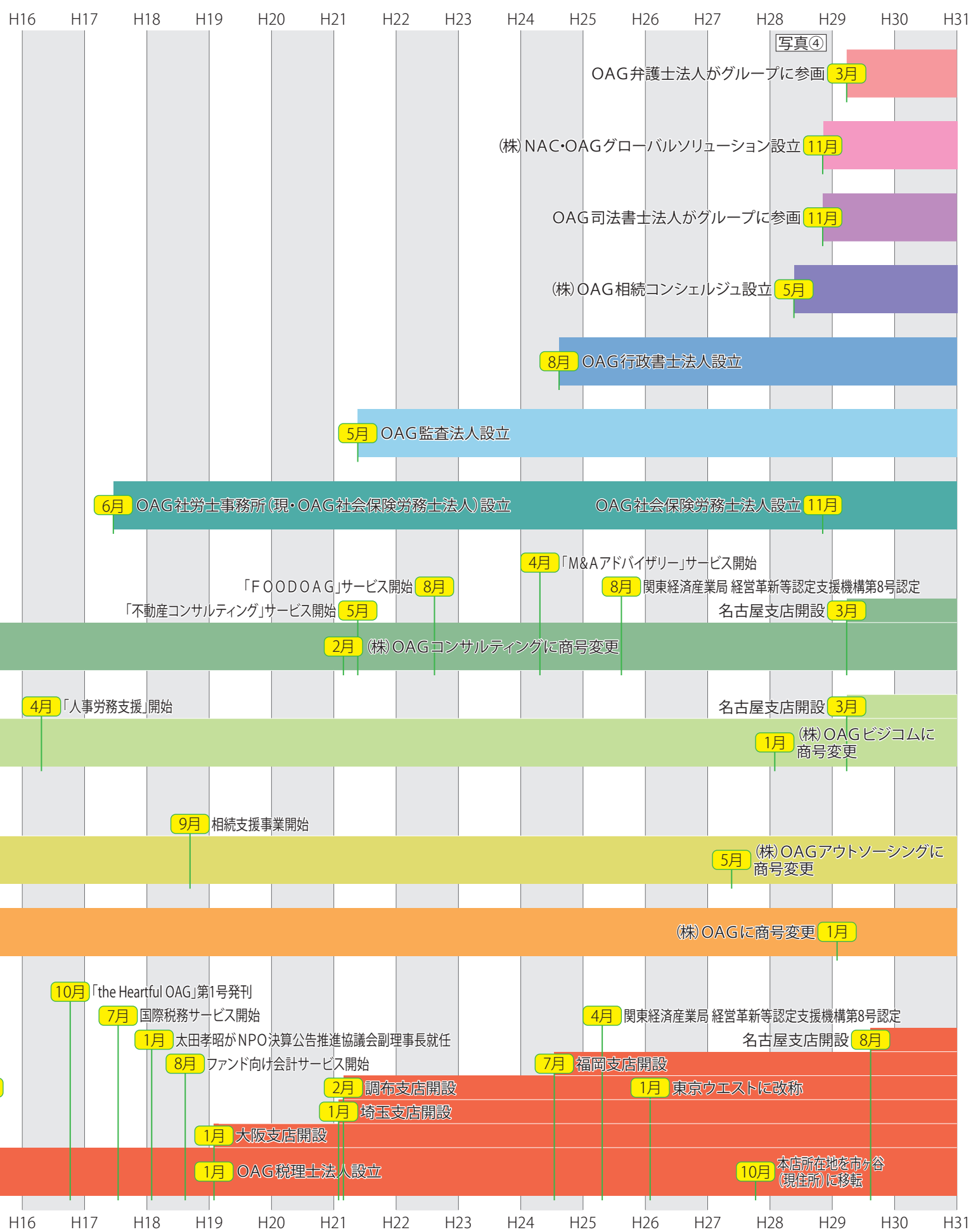
4月 太田孝昭が社会福祉経営研究会会長に就任

12月 「アドバイスリンク」に参加

5月 太田税務会計事務所(現・OAG税理士法人)設立

8月 太田・細川会計事務所に商号変更

S63 H1 H2 H3 H4 H5 H6 H7 H8 H9 H10 H11 H12 H13 H14 H15



# OAG各社・各部門の 責任者のチャレンジ

皆さまのチャレンジをご支援するために、何にチャレンジしているのか・チャレンジしていこうとしているのか、各社・各部門の責任者のチャレンジをご紹介します。

さまざまなお要望にお応えしていくためには、多彩な人材と自由な発想が不可欠です。今回はプライベートでのチャレンジも合わせて、決意と共に本誌に収めました。ご一読を賜れば幸いです。



## ▶ チャレンジ!“スリム”にブラッシュアップ

OAG税理士法人

代表社員

鶴井秀雄

仕事では、IT化を促進し、AI（人工知能）・RPA（事務作業の自動化）で徹底的な事務効率化に挑み、人だからこそできることをお客様に+oneのサービスとして提供できるようチャレンジします。

プライベートでは、病気の3つの原因と指摘される過食・運動不足・冷えの改善を目指して、5kmのジョギングを1週間に4日続けること、そして“過食”“冷え”にも効く昼食制限（生姜紅茶で済ませる）を増やすことなど、日々の生活への+oneにチャレンジします。

## ▶ 差別化へのチャレンジ

株式会社OAGコンサルティング  
代表取締役社長  
田中 繁明

10年前に3人でスタートした弊社は、多くの皆様に支えられ現在まで成長してまいりました。しかし、まだまだ課題が多く、今後これらの課題をひとつずつ解決しながら、以下の3つにフォーカスし、差別化実現にチャレンジしていきたいと思えます。また、その実現のために強靱で健やかな心身を作ることにチャレンジします。

- ① ITを駆使し、お客様と弊社の生産性向上を実現します
- ② 人材育成を強化し、弊社らしい人間性豊かで専門性の高いタレント創りを実現します
- ③ 上記を実現し、差別化されたオーダーメイド型の「カチ」あるサービスに磨きをかけます



## ▶ AIへのチャレンジ

株式会社OAGビジコム  
代表取締役社長  
前田 強

「未来」=「MIRAI」は、AI抜きでは語る事ができません。既に最近では、私たちがお客様に提供するサービスやソリューションにも、AIの活用が欠かせなくなってきました。

そこで、更なる「カチ」をお客様にお届けするために、AIを活用した新サービスの開発にチャレンジします。

また、プライベートでもAIに関連するものに注目して、積極的に触れていくつもりです。





## ▶ チャレンジ!自分の視野をもっと広げる

株式会社OAGアウトソーシング  
代表取締役社長  
桑原博文

仕事では、特に中小企業の管理業務を一元的に引き受けられるように、人材派遣による現場事務代行と、会計・給与のスペシャリストを配置したバックオフィス機能をパッケージ化したアウトソーシングの新しい仕組みを創っていきます。

プライベートでは、ボランティアで毎週子供を預かってテニスをしています。60名くらいいる子供たち全員の名前を早く覚えたいと思っています(笑)。



## ▶ 私のチャレンジ

「明日地球が減ぶとも、私は今日リンゴの木を植える」。これは宗教改革を行ったマルティン・ルターの言葉で、私の座右の銘です。

この言葉は、色々な解釈をすることができますが、私は「自分がコントロールできない周りの環境に影響されることなく、自分のすべきことを日々淡々と行う」という強い意志の表明であると捉えています。このような強い意志を持って日々を送り、人生を全うする。これが私のチャレンジです。



OAG 監査法人  
代表社員  
今井基喜

## ▶ 新しい分野にチャレンジ

弁護士の仕事の中でも、個人的に研究対象にしているのが事業承継分野です。今後、相続法の改正も予定されていますので、新しい事業承継スキームの組成にチャレンジしたいです。

プライベートでは、先日100kmマラソンを走ってきましたが、人生初のリタイアになってしまいました。引退勧告でしょうか。自転車もやりますので、そちらに比重を移そうかと思っています。新しいロードバイクが欲しいだけです(笑)。

OAG 弁護士法人  
代表弁護士  
高橋和史







OAG 税理士法人  
法人税部  
部長  
平田 実

### ▶ 2つのチャレンジ

「OAGにできることは？」 税務分野は当然として、法務・コンサル等々、サービスメニューの中で、できるだけ多くの仕事をお客様にお届けすることが一つ目のチャレンジです。

二つ目のチャレンジは、「充実!」。スタッフ、組織、私個人も含めて、公私共に充実した環境を目指しています。業務内容・社内インフラ・ブランド力への取り組み。3歩進んで2歩下がり、それでも1歩進みたい。困みに、息子の名前の先頭が「充」で、私の名前と重なると充実です(笑)。



OAG 税理士法人  
法人トータルサービス部  
部長  
清水かおり

### ▶ チャレンジが成長につながる

仕事は、いつもチャレンジです。同じような仕事にみえても、背景や目標など、一つとして同じものはありません。従来のやり方だけでなく、より良い方法があるのではないかと、もっと効果的・効率的にできるのではないかと、日々挑戦するマインドが、良い仕事につながると思います。

チャレンジは、無謀とは違います。計画と努力があって、初めてチャレンジできるのです。チャレンジする気持ちがベースにあることで、自分も成長できるように思います。



### ▶ 「チャレンジだらけ」にチャレンジ

仕事では、「部長に就任」がチャレンジの始まりでした。今後は「丸の内エリアなどの都内中心部に支店を出していけるような体制作り」を目指していきます。

プライベートでは、「座禅」です。超自己流な取り組みではなく、本格的にやりたいと思っています。

チャレンジの第一歩はまず心構えから、という事で、居住まいを直し、発想力UP、吸収力UPといきたいところです。

### ▶ 情報の整理整頓にチャレンジ

フランス人のスイマーが、6月5日に銚子を出発してアメリカ西海岸まで8,800kmを半年かけて泳ぎ渡るそうです。海洋汚染の深刻化を調査しつつ、ゴミが大量に漂流する「太平洋ゴミベルト」の実態に注目を集めることも目的です。

現代社会では、マスメディアやネットから得られた膨大な情報の中から必要な情報を取捨選択しています。しかし、捨てるべき情報まで、「ゴミ」のように散乱しているように思います。上手な情報の「捨て方」を身に付けたいですね。



OAG 税理士法人  
資産税部  
部長  
石川亜矢子



OAG 税理士法人  
資産トータルサービス部  
部長  
奥田周年



OAG 税理士法人  
マネジメント・  
ソリューション部  
部長  
榎林一典

▶ チャレンジがいっぱい

当部では、組織再編・事業承継・事業再生・S  
PC・資本政策・相続対策・連結納税・法人顧問・  
銀行対応・困難な要求への対応、そして公益財  
団と、仕事へのチャレンジに関し、ここまでやる  
チームを私は他に知らない。

プライベートでは、数々のチャレンジを自らに  
課している。次回の禁煙は、社会情勢等を考慮  
しながら慎重に見極めているところである。ま  
た、簡単お腹周りダイエットは、調査研究の域は  
既に脱し、あとは実践を残すのみとなった。



OAG 税理士法人  
公会計部  
部長  
坂邊淳也

▶ 地方公会計、全国展開へのチャレンジ

公会計部は14名のメンバーで、地方公共団体  
の企業会計化を中心とした支援を行なっていま  
す。私が入社した2年前と比べると、業務件数は  
130件超と2倍以上になり、お陰様で拡大を続け  
ています。とはいえ、全国の地方公共団体や組  
合の数は約3,600もありますので、全国展開に  
向けて更にチャレンジしたいと思います！ 尚、  
趣味の歴史ある街並みの散策や食べ歩き(特に  
その土地の美味しい物)も、全国制覇に向けて  
チャレンジを続けていきます！



▶ チャレンジ「即断・即決」と「朝活」

会計事務所に入社して約30年、2012年1月に  
支店長を拝命して6年が経ちました。業務上は  
「即断・即決」と「速効」を目指しています。

プライベートでは、朝5時に起きて「朝活」をし  
ています。新聞を読み、腕立て伏せを20回、腹筋  
50回、そして散歩かゴルフの練習です。秩父連  
山を見渡せる東松山の朝は空気も澄み、散歩を  
すると清々しい気分になれます。ゴルフは、迷宮  
に迷い込んでしまいました…。仕事もプライ  
ベートも迷わず進めるように精進します。

▶ 目標を数値化してチャレンジ

入所18年目に入り、東京ウエストの支店長に  
今年1月に着任しました。今取り組んでいるの  
は、目標の「数値化」です。仕事でもプライベ  
ートでも、具体的な数字を目指すと同様な意識に  
変わります。「売り上げを〇〇円上げたい」「〇  
カ月で体重を〇kg絞りたい」と目標を設定して  
います。

自身の限界にチャレンジしながら目標を達成  
することができたら、こんなに素晴らしいことは  
ないと思っています。



OAG 税理士法人  
埼玉  
支店長  
椎名正行



OAG 税理士法人  
東京ウエスト  
支店長  
中嶋克洋



OAG 税理士法人  
名古屋  
支店長  
田中晋平

### ▶ 民事信託とカヤックにチャレンジ

高齢化が進み、財産管理のサポートが重要になっています。生前の財産管理は遺言でカバーできず、成年後見制度では柔軟性が低く保守的になりがちです。選択肢の一つとして民事(家族)信託を提案できるようにチャレンジします。

水面に座り、ゆっくり滑っていくようなカヤックの感覚。静かな自然の中で水をかくパドルの音、鳥の声、水の匂い、水面に映る景色…。10年以上前に琵琶湖でやったことがあるのですが、なぜか最近またチャレンジしたいと思っています。



OAG 税理士法人  
大阪  
支店長  
坂上 基

### ▶ 小さなチャレンジの積み重ね

小さなことからコツコツと。

大きな目標を立てると、立てることで満足してしまい、実行に移さないことがよくあるため、会社生活の中でも少しの心がけでできることを日々実行に移します。例えば、毎日自分から挨拶する、社内で一番元気よく声を出す、など。小さなチャレンジを積み重ねることが、大きなチャレンジにつながると考えています。

プライベートでは、夏にむけて筋トレを毎日積み重ねています。



### ▶ 新しい仲間作りにチャレンジ

昨年1月に福岡支店に赴任し、初めての東京以外での生活が始まりました。福岡は食べ物も美味しく、住みやすい街で、転勤先として1,2を争う人気の都市である理由を実感しています。

福岡支店は現在6名体制で、法人から個人のお客さままで、社内外の方々からのサポートも頂きながら業務を行っています。今後は、新しい仲間も増やしていけるように挑戦していきます。

プライベートではゴルフを始め、スコア向上にチャレンジしているところです。



OAG 税理士法人  
福岡  
支店長  
矢野晴久

### ▶ 全社的な仕組み化にチャレンジ

事業規模の拡大や社員の増加に、「力づく」で膨張させてきた事務・管理業務(人事・経理・広報等)の本格的な仕組み化に3年前から着手。新しい専門人材を複数登用し、テコ入れを開始しました。今期は基幹となる財務会計システムの再構築を模索中。現場部門・管理部門全体の効率と迅速な経営判断の為の数値管理の構築に、焦り爆発中です。月2回のゴルフで頭を真っ白にして、何とか第一弾ゴールまで、たどり着きたいと思っています。



OAG 税理士法人  
経営管理部  
部長  
石鍋智子



株式会社  
OAGコンサルティング  
取締役  
大綱小百合

▶ **新しいチームの統括にチャレンジ**

『会計コンサルティングチーム』の統括と、本年から新たに『事業承継チーム』の統括としてチャレンジをしています。この4月には、弊社初の4名の新卒社員を迎えることができました。多くの仲間との対話を大切にして、個々人の成長がチームの成長を加速させるべく、お客様の課題解決を支援できるプロ集団を目指していきます。プライベートでは“日々丁寧な生活をする”を目標にかかげ、穏やかな精神と、感謝の気持ちを持つことで良い循環を作っていきたいです。



株式会社  
OAGコンサルティング  
取締役  
細島雄樹

▶ **心豊かな組織づくりにチャレンジ**

M&A 事業部が出来て、6年が経ちました。当初は1人でスタートした事業部も、今は8人体制になりました。社会から愛され、必要とされる会社作りにチャレンジします。その基礎は、スタッフが長きにわたって健康で安心して成長できる環境づくりにあります。その上で、中小企業の皆様の事業拡大に貢献するご提案に磨きをかけ続けます。プライベートでも、愛し愛される人間になります。どんなときも、あせりのない底知れない人間になります。



▶ **未来へのチャレンジ**

弊社は昨年11月に事務所を移転し、それに伴い今年、チーム横断的なプロジェクトチームを3つ立ち上げました。「顧客価値創出」「コンサル力強化」「情報の共有」の3つです。いずれも未来に向かってのチャレンジです！

スタッフの“熱”を感じながら、私自身も学びの時間を増やすことにチャレンジしています。朝活として専門情報の習得、週活として休日のスクール通い。素晴らしいスタッフと共に、未来に向かってチャレンジしていきます!!



株式会社  
OAGビジコム  
取締役  
大谷洋一郎

▶ **プラスαにチャレンジ**

1社でも多くのお客様に「OAGで良かった!」と言ってもらえることができるように、お客様の期待を超えるプラスαにチャレンジしていきます。プラスαの感じ方はお客様ごとに異なりますが、模索と検討を重ねながら、日々の業務に全力を注いでいきます。

プライベートでは、ランニングなど体力作りを継続します。肉体と精神の両面において健康を維持することにより、充実したワークライフバランスの実現にチャレンジしていきます。



OAG 社会保険労務士法人  
代表社員  
山下拓也



株式会社  
OAG相続コンサルティング  
代表取締役社長  
日向野祐一

### ▶ 勝利を目指して更なる発展へチャレンジ

名古屋に赴任して以来、自分にしかできないことは何かを模索し続けて、6年が経ちました。葬儀会社では、「相続はOAG」という導線が定着し始め、売り上げも着実に伸びて、ようやく軌道に乗ってきたところだと考えています。会社も自分も、まだまだ発展途上。だからこそ、進み続けられると思っています。

プライベートでは、勝つために自分の意思を持って積極的に行動することを心がけていきます。



OAG行政書士法人  
名古屋支店  
社員行政書士  
加藤健司

### ▶ 労働時間の削減と健康管理にチャレンジ

仕事では、売り上げ向上と同時に業務効率化の一環としてスタッフの労働時間削減にチャレンジします。昨年の支店スタッフの合計労働時間から1年で10%減らす仕組みを作っていきます。目的は人件費削減ではなく、より働きやすい職場環境の実現です。

プライベートでのチャレンジは、妻を健康診断に行かせることです。この数年できませんでした。毎日安心して仕事に行くためにも家族や自分の健康管理には留意していきたいです。



### ▶ チャレンジ。思いをつなげる

会社に属する一人ひとりの思いや力を集めて、様々な成果を積み上げ、全員で共有する。誰もが自分の枠を超えることに積極的にチャレンジできる。そして、人の為にという思いを持った、そんな組織、チーム力を醸成していきたいと思っています。

個人としては、体力アップです。スポーツに熱中していた“あの頃”を忘れてしまったかのような今、かつての熱意を超える気持ちでチャレンジします！



株式会社  
OAGアウトソーシング  
アカウントティング  
サービス部  
部長  
徳能正人

### ▶ 革新性ある新たなサービスにチャレンジ

社会問題になっている人手不足や管理業務の安定化に対して、経理人材の派遣+会計・労務アウトソーシングを一体化した「人+BPOサービス」を一昨年に事業化し、「全ての経理・会計業務の丸投げ」を強みに、「コア業務への集中を可能とし、成長支援へのサポートをお客様へ提供する」を目標にチャレンジしています。

また、昨年結婚し、今秋には新たな家族が増える予定です。明るく元気に、笑顔の絶えない素敵な家庭を目標に楽しくチャレンジしています。



株式会社  
OAGアウトソーシング  
BPO  
コンサルティング部  
部長  
和田大輔



OAG司法書士法人  
代表社員  
大鹿典夫



OAGグループ  
グループ戦略室  
室長  
古田 拓

## ▶ 資格職の生き残りにチャレンジ

私の手元に20周年記念号の小冊子があります。寄稿者の船井幸雄先生、山中孝一社長が鬼籍に入られました。永久にトップとして走り続けることはできませんが、太田さんが言われる通り、いつまでもチャレンジし続けることが大切だと思います。大きく変容していく時代に資格職として勝ち残ることを目指されている太田さんのチャレンジに、一司法書士としても何らかのチャレンジをしないわけにはいきません。40周年に向けて、お手伝いできれば望外の喜びです。

## ▶ “視点を変えること”にチャレンジ

グループ戦略室では、ブランディング・IT戦略・広報・全社重点施策の執行など、OAGグループ全体に関わる業務を担当しています。各社の「とがり」とグループ全体の「つなぎ」を大切に、新たな視点でのグループ運営にチャレンジしています。プライベートでは一昨年16kgのダイエットに成功したので、次は趣味の手品で本格的にマジシャンに弟子入り中です。視点の違いが、ここまで驚きを生むとは！ ちょっとした視点の違いの大切さを学んでいます。



OAGグループ各社・各部門の責任者のチャレンジは、いかかでしたでしょうか。普段から接している社員でも気付かなかった意外な一面も、垣間見えたように思います。

次に皆さまとお会いする機会には、ぜひ皆さまのチャレンジをお聞かせください。今後もOAGグループは、「お客様の新たなチャレンジ」が成功するための一翼を担えるように、全スタッフがたゆまぬ「チャレンジ」を続けて参ります。

## ■創業30年記念ロゴのご紹介■



OAGグループでは、創業30年を迎え、決意を込めた記念ロゴを制作しました。

本誌の前号からご紹介している通り、OAGグループの創業30年のテーマは、「新たなチャレンジ」です。

▶「0」のデザイン

「30」の「0」を大小30個の丸でデザインし、OAGグループがご支援する様々なお客様を表現しています。

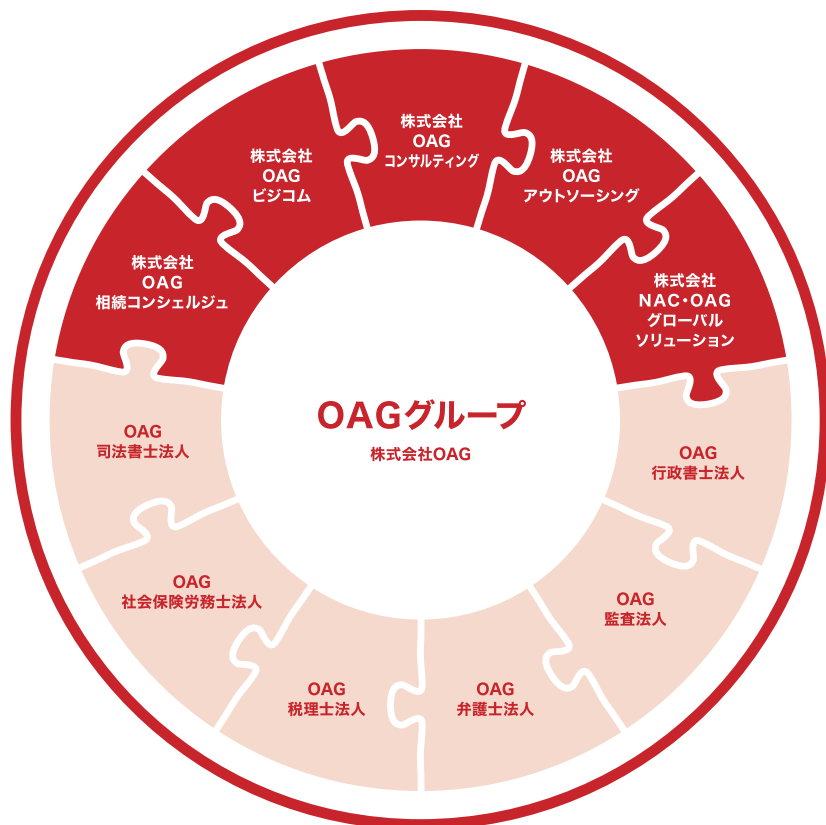
▶矢印のデザイン

「お客様、そしてOAGグループの成長」と「お客様の新しいチャレンジをOAGグループが支えていく決意」を表現しています。

### 記念ロゴに込めた思い

様々なお客様の新しいチャレンジに貢献したい

## ■グループ関連図のご紹介■



OAGグループは、「6つの士業法人」と「6つの事業会社」の計12社が各社・個人の“とがり(=強み)”とグループ間の“つなぎ(=連携)”を大切にしながら、お客様の成長を支援します。

## ●今後のセミナー開催予定●

開催日	名称	会場
7月11日(水)	女性のためのらくらく相続 <sup>®</sup> セミナー	調布市文化会館たづくり10階(京王線調布駅広場口徒歩3分)
8月9日(木)	相続セミナー(仮)	調布市文化会館たづくり10階(京王線調布駅広場口徒歩3分)
8月28日(火) 8月29日(水) 8月30日(木)	事業の継続、拡大のための事業計画と経営管理のポイント	東京ビッグサイト東ホール(りんかい線国際展示場正門駅徒歩3分)

※セミナーに関するお問い合わせは、広報誌担当(03-3237-7500)までご連絡ください(【有料】表示以外は無料です)

### 今月の写真

Photo by Yasuyoshi Wada



OAGの歴史を知る一人として、今日までの事務所の変遷(引越し・新拠点)を綴りたいと思います。まず、創業時の事務所探しから左門イレブンビルに移転するまでの経緯が、現在のOAGに成長する大きなきっかけになったと思います。代表の太田が国税局を退職して事務所探しを始め、飛び込みで入った新宿の明治通り沿いにある不動産会社が紹介してくれたのが、新宿6丁目のシルバーマンション新宿(写真:左)でした。その不動産会社の社長は偶然税務署出身で、初対面で太田と意気投合して、すぐに顧問先になりました。それだけでなく、何件もお客様を紹介していただきましたから、顧客ゼロでスタートした太田にとっては、極めて幸運な出会いでした。

そのマンションを僅か半年余りで引き払い、約28年間過ごすことになる四谷三丁目の左門イレブンビル(写真:真ん中)に移りました。創業半年で社員も2人、家賃は3倍近くになるので移転するのか相当悩んだようですが、事務所の移転よりも新しいグループに参画することが大きな目的でした。そのグループ

は当時の太田と同年代(40歳前後)の新進気鋭の弁護士・公認会計士・弁理士・建築士・税理士が同じフロアに集まり、ワンストップサービスを提供する「アドバイズリンク」であり、各事務所は相乗効果を発揮して拡大していきました。

OAGは創業から僅か3年で関連会社のビジコム(現・OAGビジコム)、経理秘書(現・OAGアウトソーシング)を設立し、資産税部の分室、法人税部の分室を四谷三丁目界隈に設け、その後左門イレブンビルに集結させました。また、支店を大阪・調布・埼玉・福岡・名古屋に展開し、2015年10月にOAGグループの本部を市ヶ谷のホームテックホライゾン(写真:右)に移転しました。

本部の移転は3回でしたが、ふと気づくと、創業からの30年間でグループ全体の引越し・新拠点の設置は30回ありました。吉数とされる3づくしなのも、無事に30年を迎えることができた理由の一つなのかもしれませんね。既に現在の事務所も手狭になりつつありますから、近い将来、事務所移転のご案内を皆さまに差し上げることになるのかもしれませんが(!?)。

### 編集後記

今月号は「創業30年記念号」です。創業30年のテーマは「新たなチャレンジ」。そこで、多くのお客さまに「チャレンジ」に関するお話をお伺い致しました。制作を進める中で、経営者の皆さまの事業に掛ける熱い想いが胸に迫り、私と同世代の経営者の方からは大きな刺激も受けました。経営者の皆さまは時代の荒波を乗り越えるために、常にチャレンジを続けておられます。私たちはそのチャレンジをしっかりとご支援

していけるよう、次の30年もチャレンジを続けて参ります。

無事完成した記念号の入稿データを前に、言葉にするとシンプルで、当たり前のように聞こえてしまいが…お客様、そしてスタッフあつてのOAGグループなのだ改めて実感し、まだ入社2年目の私ですが、感慨もひとしおです。本誌の制作にあたり、ご協力いただきました皆さまに、心より感謝申し上げます。(や)

相続対策・手続きのすべてをお任せください

**AG** (チーム相続)  
http://www.sohzoku.jp

公会計は地方創生の基盤です

**OAG税理士法人 公会計部**  
http://www.oag-koukaikai.com/

■発行 OAGグループ  
OAG税理士法人／(株)OAGコンサルティング  
(株)OAGビジコム／(株)OAGアウトソーシング  
OAG監査法人／OAG弁理士法人

■発行人 OAGグループ 代表 太田孝昭  
■編集人 OAGグループ グループ戦略室 広報  
■住所 東京都千代田区五番町6-2 ホームテックホライゾン  
tel.03-3237-7500 / fax.03-3237-7510